

9月24日(火)

■「陳情」1966年HBC制作(29分)

「(政治家の)顔が力を呼び、その政治力が金を引き出す。」国民のものだという“政治”を日本独特の制度である「陳情」を通して描いたドキュメンタリー。当時流行していたエレキギターのリズムに乗せて、この独特の“政治風土”を皮肉り、批評精神に富んだ作品となった。現在では撮影が不可能な場所にもカメラが入り込んで描いたこのドキュメンタリーは今日もお続く日本の“政治風土”の本質を抉り出す。(日本民間放送連盟賞最優秀・会長賞、サンデー毎日賞)

■「あの海にこだまして ～泰東丸捜索の記録～」1975年STV制作(47分)

解説:中尾則幸

昭和20年8月22日朝、留萌沖で樺太からの引揚げ船三隻が相次いでソ連潜水艦の攻撃を受けた。泰東丸と小笠原丸が沈没、第二新興丸は大破し、1,700人を超える引揚げ者が犠牲となった。三隻のうち泰東丸については事件後30年もの間、沈没地点さえ調査されず、670人余りの犠牲者の殆んどは名前も判らなかつた。番組では、全国各地に泰東丸の数少ない生存者や遺族を探し求め、国に事件の真相究明を迫る。(日本民間放送連盟賞最優秀賞、第34回ギャラクシー賞選奨)

■「『第九』を歌った町～北海道・清水町～」1980年HBC制作(50分)

解説:溝口博史

過疎と農業の行き詰まりにという困難に直面している清水町の町民たちが、ベートーベンの「第九」の大合唱に取り組み姿を追ったドキュメンタリー。演奏に十勝の雄大な田園風景・町民の暮らしなどの“映像”を融合させ、ダイナミックな世界を創り出した。歌い終わった後、感極まって涙する町民たち…その晴れ晴れとした表情が胸を打つ。(芸術祭賞最優秀賞、放送文化基金賞奨励賞)

10月22日(火)

■「みんな輝いていたよ・・・熱中先生ふれあいの記録」1985年STV制作(25分)

胆振管内厚真町立鹿沼小学校の一人の教師と子どもたちのふれあい教育を記録した。教師の名は工藤憲さん(36歳)。全校児童22人の子供たちにバレーボールを教え、男子はわずか7人のメンバーで全道準優勝を果たした。工藤先生は子供たちに木版画を教え、何人もの児童が版画コンクールで数々の受賞を果たす。その他、創作劇、文章指導と幅広く《人間教育》を実践する。いじめや不登校など学校教育のあり方が問われている現状、熱中先生のふれあい教育から学ぶところは多い。

(日本民間放送連盟賞最優秀賞、放送文化基金賞奨励賞)

■「地底の葬列」1982年HBC制作(79分)

解説:後藤篤志

1981年(昭和56年)10月16日に発生し、93人の命を奪った北炭新夕張炭鉱のガス突出事故。その犠牲者の家族、そして、その事故の背景を追ったドキュメンタリー。事故の無残さを伝えるだけではなく事故を繰り返す近代産業の構造とその矛盾にまで迫る。(芸術祭賞大賞、放送文化基金賞奨励賞、民間放送連盟賞最優秀賞)

■「石炭奇想曲～夕張、東京、そしてベトナム」2007年UHB制作(47分)

解説:吉岡史幸

財政破綻した、かつての炭鉱町・夕張市。南部地区では商店街の閉店が進み、老人たちの拠り所だった市の連絡所も閉鎖された。一方、日本は過去最高の石炭消費量を記録。東京の電気はその四分の一は石炭に頼っているという。政府は石炭を安定確保すべく海外に目を向け、ベトナムの炭鉱開発に鉦路の炭鉱マンを派遣し、技術を伝えている。夕張とベトナムの新旧炭鉱町の栄枯盛衰や人々の姿、喜び悲しみなど、「石炭」というキーワードから見えてくる“今”を美しい映像とともに描いた作品。

(日本民間放送連盟賞最優秀賞、FNNドキュメンタリー大賞特別賞)

11月19日(火)

■「乃木坂46橋本奈々未の恋する文学」2016年UHB制作(25分)

乃木坂46旭川出身の橋本奈々未が鉦路出身の作家桜木志乃の「ラブレス」の舞台鉦路を訪ね、作品の背景と心情を語る。(中国アジア旅映画テレビ映像祭最優秀賞)

■「テレメンタリー2018「嘘塗りの骨～アイヌ人骨返還問題の悲痛～」2018年HTB制作(25分)

解説:沼田博光

日本の先住民族アイヌ。コタンと呼ばれる集落を作り、今の北海道を中心に、自然の中で暮らしてきた。しかし150年前、明治政府の政策で大勢の開拓民が入植し、差別の歴史が始まる。研究目的として、遺骨までもが掘り返され、いまもおよそ1600体が、全国の大学に眠る。「盗んだものはコタンに還せ」。各地で声を上げるアイヌたち。彼らの訴えは、裁判に発展する。そして明らかになるずさんな管理と研究の不備。アイヌの祈りは届かない。(ギャラクシー賞選奨)

■HTBノンフィクション「カムイの鳥の軌跡～オオジシギ 2つの物語～」2017年HTB制作(45分)

日豪を渡るオオジシギを世界で初めて追跡調査する国際共同研究チームの活動に密着。生態がわからない渡り鳥は、実はアイヌ民族がカムイと呼ぶ特別な鳥。羽がボロボロになる求愛活動に、ミミズを掘り当てる特技を披露。番組で初めて紹介する世界初の新事実に加え、急激に進む環境変化の実態を北海道とオーストラリアの2か国から伝える。

(高柳賞最優秀賞、グリーンイメージ国際環境映像祭審査委員特別賞(準大賞)、科学技術映像祭優秀賞)

12月17日(火)

■「ニセコルール～守り人の闘い」2017年TVH制作(26分)

良質なパウダースノーを求めて、世界中からスキーヤーが訪れる北海道ニセコ。雪山には雪崩からスキーヤーの安全を守る、世界でも珍しい独自の「ニセコルール」があり、それがスキーヤー増加の一因にもなっている。番組ではルールの生みの親で、冒険家の新谷暁生さんに密着、その活動と生きざまに迫る。

■「風の音は聞こえない…少年竜二 空を飛べ」1998年STV制作(46分)

解説:林健嗣

鳥になりたい…少年は夢に向かって飛び続けた。これは15年の歳月に刻み込まれた、少年とその家族の魂の記録。重度の聴覚障害をもつ高橋竜二は、1998年長野五輪のジャンプ競技の代表選手を抑えて、直前の国際大会で優勝し、Wカップランキング入りを果たした。急遽テストジャンパーとして代表選手とともに長野に帯同することになる。STVは15年に渡って、障害をもつとせず、ジャンプに挑み続けている少年竜二を記録していた。少年から青年へと成長した竜二が、誰もが予想しなかった大舞台に立つことになる姿を追い、ジャンプを通し問いかけ続けてきた竜二と家族の魂の記録である。(日本民間放送連盟賞最優秀賞)

■「けいざいナビスペシャル 検証・拓銀破たん20年～今伝えたいこと～」2017年TVH制作(66分) 解説:廣岡雅晴

25年前、当時の総理と日銀総裁が検討していた金融機関への公的資金注入。もし、それがもっと早く実現していたら、あの破綻は回避され、今は違う道があったのか。あの教訓はどのように生かすべきなのか。北海道拓殖銀行の破たんから今年で20年。97年4月の北海道銀行との合併発表から11月の破たんまでを検証。当時の河谷頭取、資金証券部長、日経新聞担当記者の証言をもとに「拓銀破たん」の意味を問う。

司会:中田美知子